

けん 県オリジナル品種で のうぎょう 農業の未来を拓く

けんちようのうりんすいざんそうむかけんきゆうすいしんつ
県庁農林水産総務課研究推進室 ☎073-441-2995
 けんちようかじゆえんげいか
県庁果樹園芸課 ☎073-441-2902

本県の農林水産業は、地域経済や雇用を支える重要な産業ですが、近年、担い手の減少や高齢化、耕作放棄地の増加などの課題をかかえています。

このような状況のなか、県では、農林水産関係者などから研究テーマを募集し、ニーズを反映した研究を実施する「農林水産競争力アップ技術開発事業」を創設するなど、収益性の高い農林水産業の実現に向けて、試験研究に取り組んでいます。

今回は、本県の農業産出額の大半を占める果樹、野菜、花きを中心に、県オリジナル品種の育成や普及などの取組を紹介します。



研究 開発

つぎつぎ いくせい
次々と育成される
 けん 県オリジナル品種

はるき 春の紀州を感じる

果樹試験場では、収穫時期の異なる県オリジナル品種を切れめなく出荷する「カンキツのシリーズ出荷」の実現をめざしています。平成24年には9月中下旬に出荷できる極早生温州みかん「YN26」を育成し、平成26年には、浮皮が少なく良品質で、12月から出荷できる中生温州みかん「きゆうき」を現地枝変わり系統から県とJAで選抜し、品種登録の支援を行いました。

さらに、新たな中晩柑として、3月から出荷でき、高糖度でさくさくした食感の「はるき」を育成しました。皮がむきやすいので手が汚れず、果実の袋が薄いことから非常に食べやすい特徴があり、令和3年に品種登録されました。



「はるき」に続くカンキツも育成しています。



きしゅう 紀州てまり

大玉で美しく、食味よし

本県の主力品種「刀根早生」(渋柿)の出荷が集中する10月上旬から、その後「富有」(甘柿)の出荷が集中する11月中旬までの間に出荷できる甘柿の育成が望まれており、かきもも研究所では、10月下旬頃から収穫できる「紀州てまり」を育成し、令和2年から出荷が始まっています。

「紀州てまり」は、糖度が17%程度と高く、食味も良く、「富有」より大きい上に、果皮に亀裂の入る条紋などの生理障害がほとんど発生しないため、外観が良好という優位性のある完全甘柿です。



現在、「紀州てまり」より1週間程度早く収穫可能で、シャキシャキとした食感で食味が良い「紀州あかね」も育成しています。



せいしゅう 星秀

黒星病に強く、受粉樹に活用できる

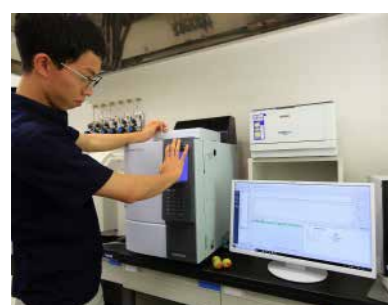
「南高」は本県を代表する全国ブランドとして有名ですが、開花期の気象条件によって、収穫量が左右されることがあります。

そこで、うめ研究所では、受粉が安定し、主要病害の黒星病に強く、「南高」と同時期に開花する「星秀」を育成しました。



この品種は、減農薬栽培によるコスト削減などが期待されるほか、受粉樹としての活用により「南高」の安定生産にも寄与することが見込まれます。

また、ICT(情報通信技術)やロボット技術などを活用し、省力化を図る「スマート農業」の実証実験にも積極的に取り組んでおり、スマート農業の導入などを視野に入れた省力的樹形も検討しています。



果実成分の分析により、新たな品種育成も行っています。